

幼児期の学びと地域との関わりについて

小学校就学前の幼児期は、幼児の自発的な活動である遊びを中心とした生活を通して、主体的に学ぶ力が育まれ、小学校での自覚的な学びへとつながります。

新しい幼稚園教育要領では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、自立心や協同性、社会生活との関わり、自然との関わり・生命尊重など、地域との関わりによってより深く育まれるものが示されており、また、小学校以上の新しい学習指導要領を含めた統一的テーマである「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域との関わりは欠かせないものとなっています。



地域ではぐくまれる

京都市立幼稚園

～子どもが地域に親しみ愛着をもち、やがて地域の担い手となるために～



京都市は、明治 2 年、町衆の力により日本最初の学区制小学校「番組小学校」を創設したまちであり、明治 8 年には、日本最初の公立幼稚園が小学校に併設されました。以降、現在に至るまで「地域の子どもは地域で育てる」という教育理念の下で幼児教育が展開され、子どもたちは地域の人々に支えられ、交流しながら、四季の移ろいを感じたり、長い歴史の中で培われた伝統文化に触れる体験を重ねてきました。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

深草幼稚園 の取組

文部科学省調査研究
実践協力園

京都市立深草幼稚園は、京都市南部の伏見区に位置し、稻荷山や竹林など豊かな自然に恵まれた落ち着いた住宅街にあります。深草地域では、地域の方々の御好意により、筍掘りや農園での野菜の栽培や収穫など様々な自然体験を提供していただいております。地域の方の発案で学校運営協議会は「なかよし会」と呼ばれ園児にも親しまれており、子どもも保護者も地域もみんなが笑顔になり育ち合う幼稚園づくりに取り組んでいます。深草幼稚園では、年間指導計画に地域との連携を位置付け、行事だけでなく日頃から地域とのかかわりを大事にした保育を実践しています。

Case
1

花や野菜のプレゼントやさん

幼稚園のこども広場で、自分たちで育てた花や野菜の苗を地域の方々にプレゼントしました。「ありがとう」「種から育てたの？すごいね」という声かけが嬉しく、自分たちの活動や行動が地域の人の喜びにつながることを実感しました。登園時に「こども広場で育てた花、見つけた!」と嬉しそうに報告する子どもたち。みんなで地域にお散歩に出かけた時に花を見つけたハルコ(仮名)。「あっ!ハルコたちの花や!」という言葉が“みんなの取組”となっていることを表現しています。



Case
2

みんなの笹・みんなへの願い事

「なかよし会」の方々と一緒に大笹をもらいに行き、遊戯室に設営してもらいました。子どもたちは自分の笹とは違い「みんなの笹」と思っています。そこで「みんなが嬉しくなるような、みんなのことを考えて短冊を書こうか」と投げかけてみました。すると「みんなが怪我をしないで大きくなれますように」「大きな笹に飾ってみんなの願いがかなうように」という言葉が返ってきました。地域の一人としての自覚や公共心の芽生えです。



文部科学省委託事業「幼児期の教育内容深化・充実」調査研究事業について

平成 28 年度、標記事業のうち「幼稚園等を核とした地域との連携充実に関する調査研究」をテーマに、みつば幼稚園・深草幼稚園を実践協力園として調査研究を実施。学校運営協議会を核とした京都市でのこれまでの取組の成果と課題を検証し、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた今後の取組の方向性についてとりまとめました。

問合せ先

京都市教育委員会 指導部 学校指導課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488
TEL: (075) 222-3806 FAX: (075) 231-3117
平成 29 年 3 月発行



京都市立幼稚園の学校運営協議会

京都市立幼稚園における学校運営協議会では、地域の方々が「幼稚園の応援団・ご意見番」として園の運営に関わり、幼稚園のビジョンの共有、教育活動への参画、関係者評価と改善策の提示など幼稚園を組織的に支えていただいています。この継続的な取組が、園児に「豊かな体験・豊かな学び」をもたらし、地域への愛着を育んでいます。

学校運営協議会を核とした地域との連携

みつば幼稚園 の取組

文部科学省調査研究
実践協力園

京都市立みつば幼稚園は、3 園を統合して平成 7 年に新設された京都御苑の西に位置する幼稚園です。地域の温かい支援と熱い思いの下、幼稚園としては全国で 2 番目となる学校運営協議会「みつばの森」が発足し、平成 27 年度に設立 10 年を迎えました。「みつばの森」は、子ども・保護者・地域・教職員が共に育ち合う幼稚園づくりを目指し、各代表者を構成員とした理事会と 3 つの部会からなっています。その部会のひとつである「ふれあい♥つながり企画推進委員会」では預かり保育の充実や小学校の学校運営協議会との連携に取り組むなど「地域の子どもは地域で育てる」ことを実践しています。

Case
1

特養さんを招く「おもてなしの心」 ～ふれあい♥つながり～

園舎には特別養護老人ホームが隣接しており、開園当初から特養さんとの交流を大切にしています。学校運営協議会が地域の活動として取組に関わっていただくことで、特養を利用されるお年寄りを幼稚園に招くことができました。園児たちは自分たちの“ホームグラウンド”で「おもてなしの心」を存分に発揮し、おじいちゃん、おばあちゃんの喜ぶ姿に嬉しさいっぱいの笑顔を輝かせていました。



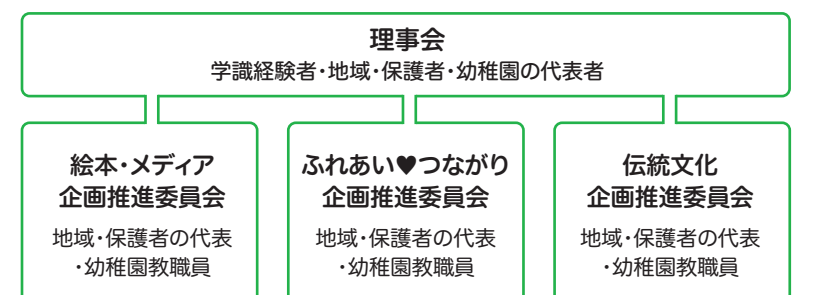
Case
2

かどは 門掃きで地域の一人である喜びを感じる ～ふれあい♥つながり～

夏の宿泊保育を学校運営協議会との共催で計画・実施し、多くの地域の方々に参画いただきました。2 日目の朝は、園児が京都の生活に根付く暮らし文化である「門掃き」を体験。ラジオ体操で園の広場に集まる地域の方々に「ありがとう」「上手に掃いてるね」「お泊り保育は楽しかった?」と声をかけてもらった園児たちは、家族と離れて一晩過ごした自信と地域の方々の役に立つ喜びを感じている表情を見せていました。



みつば幼稚園学校運営協議会「みつばの森」



地域の人との関わり



幼小連携



地域の方を幼稚園へお招き



地域の方と昔あそび



幼中連携

地域の声

(学校運営協議会の)回を重ねるごとに子どもたちと親しくなり「なかよし会」の名前も定着してきてよかった。子どもが名前を覚えてくれて、幼稚園の外であっても挨拶をしてくれて嬉しい。

伝統文化体験



地域のまつり



地域のまつり



祇園祭お囃子体験



茶道体験



機織り体験

教職員の声

地域のことをよく知る機会になり、地域の方に親しみを感じ、その人柄に触れることができた。教職員だけでは成し得ない「ほんまものの体験」ができ、深い学びが得られたと実感した。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

わかりやすい幼児教育の発信
地域の方々と園児・保護者等をつなぐ
教職員の役割

子どもたちにとっての身近な地域は
幼稚園の外へ小学校へと広がり
やがてさらに広い社会の中で

たくさんの人々と共に暮らしていることを実感していきます

京都市立 幼稚園では

「地域の子どもは地域で育てる」という理念の共有のもと

地域のみなさまに支えられ

子どもたちは安心して成長しています

子どもたちの内に芽生える地域の一人としての自覚や公共心は
人の役に立つ喜びや自己肯定感を感じる機会が積み重なることで
大きく育まれます

「学校運営協議会」 を核とした地域との連携

共にふれ合う継続的な取組
組織的なビジョンの共有
発展的な学校評価

保護者の声

子どもを通して地域の行事に参加する機会が増え、若い時には軽く考えていた地域のつながりの大切さをとても感じるようになりました。子どもたちが地域のみなさんに育てられて、見守られているという安心感をもっと広げていければと思います。

園児・保護者・地域・教職員が 共に育ち合う幼稚園

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量・図形・文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

地域での自然体験



上賀茂神社で自然体験



京都御苑で自然体験



仏光寺で自然体験



地域の畑で収穫体験



大文字山で山のぼり